

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

長野県 大鹿村

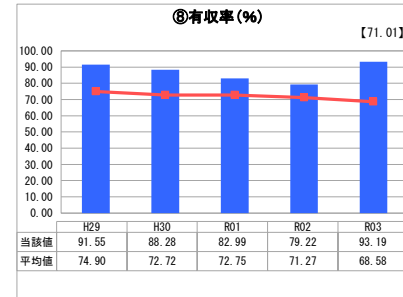
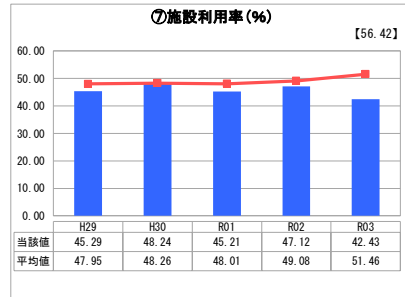
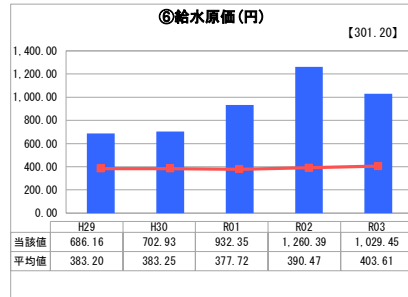
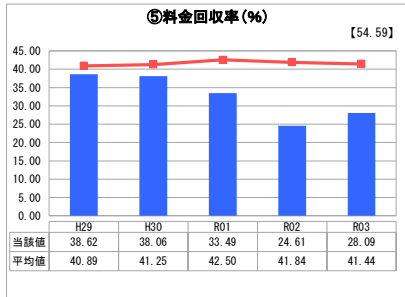
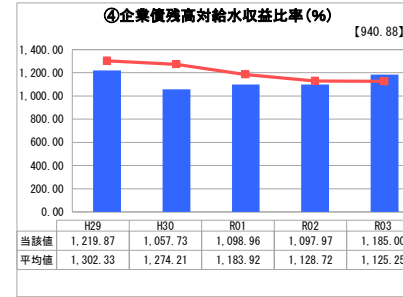
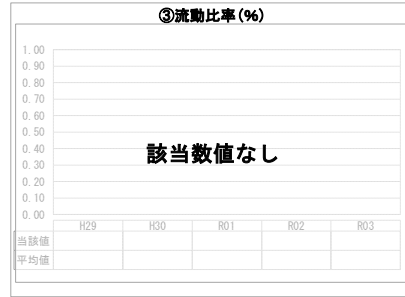
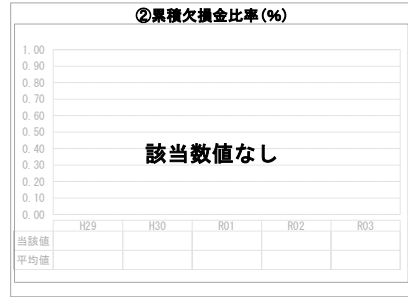
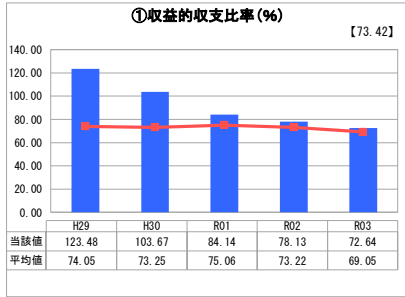
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	該当数値なし	87.83	3,863	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
941	248.28	3.79
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
823	7.97	103.26

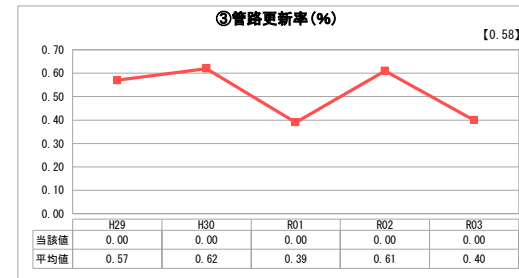
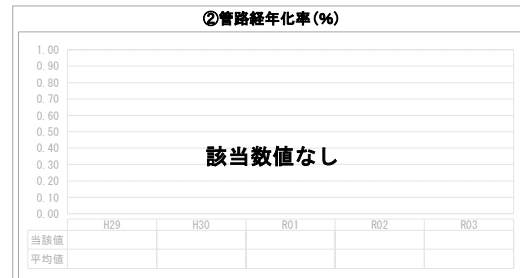
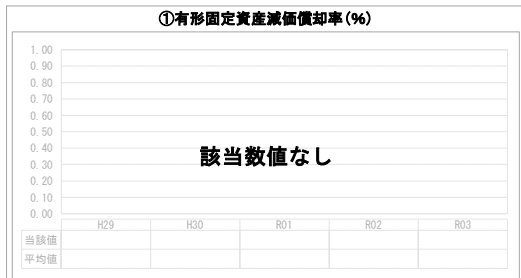
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

住居が点在する山間部においてポンプの動力費及び老朽化した施設の修繕費が膨大であるため、給水原価が依然として高額であり、収益的収支比率が昨年度よりも僅かに減少している。

料金回収率は僅かに上昇したが、依然として他会計繰出基準外から収入不足分を補填している状態である。

企業債残高については、令和2年度から継続して企業債を借入している為、今後の償還金及び企業債残高が増額になる見込みである。

発見できなかった漏水の修繕及び耐用年数を超過した水道管を一部耐震管に更新したため、昨年度よりも有収率が上昇している。

### 2. 老朽化の状況について

耐用年数が超過し能力が低下している機械設備等は、計画的に更新を実施している。突発的な不具合が発生し修繕費が膨大になる機械設備等については、随時更新を実施している。

管路については、耐用年数を超過し耐震基準を満たしていない水道管が複数箇所布設されている為、具体的な施設更新計画を策定し水道管の耐震化を検討する。

今後、施設の更新を計画的に進めるため、更新に伴う費用が膨大になることが予想され、給水原価が増加する見込みである。

## 全体総括

老朽化した施設に対する修繕費及びポンプの動力費が膨大であるため、収益的収支比率が低く健全な運営ができていない状態ある。老朽化している施設の計画的な更新を行い修繕費の抑制が必要である。また、給水人口の低下に伴い料金収入の増加が見込まれないため、定期的な料金改定を行い、健全な事業運営を行えるように努める。